

名教スタッフ版

よめよめグラフィック

名前

都築 良仁

★読んだ本について書いてみよう。

日付
12月5日

ページ数
278ページ

①本の題名

数学を使わない数学の講義

②本の作者

小室直樹

③私のおすすめの本を、紹介します。

「数学」と聞くと、身の毛がよだつ人もいると思いますが、私もその一人です。中学・高校時代に数学が苦手というか、大嫌いでした。私の数学は完全に文系数学で、参考書の解き方をひたすら丸暗記していました。例題を見て、「意味が分からんけどりあえず暗記しとけ！」という具合。大学に入ってからも（一応経済学部出身です）、学部の授業に微分積分と出てくるんですが、イマイチわからりませんでした。ははは。

ところで、私たちが学校で習う数学は、「オペレーションとしての数学」です。答えが決まっている問題に対し、計算だとか、補助線を引くという技巧を学び、どのようにその答えを導き出すのかということを勉強します。しかし、世の中には、答えが決まっている問題よりも、答えがはっきりしない問題の方が多いのです。そのような問題に挑もうとするとき、「オペレーションとしての数学」ではなく、もうひとつの数学の力が必要になってきます。それが「論理」＝「数学的思考」をやる力です。本の中で著者が取り上げていた「論理の基本事項」について、少し実践してみたいと思います。

①「存在問題」：社会にある様々な問題に対して「解の存在」の有無をまず明確にし、次に解にたどり着くアプローチの仕方があるのかないのかを考えること。

例えば、私が世界で一番嫌いなものは、「にんじん」なのですが、私の身に「にんじんを食べる」という問題

が発生したとき、まず私が「にんじんを食べる」といことができる条件がこの世に存在するのかが、存在しないのかを考えます。「にんじんを食べる」条件はこの世に存在しないとすれば、この問題については何を考えても無駄なので、「にんじんのかわりに同等の栄養素を含んでいるサプリメントを飲む」という答えを出さざるを得ません。私が「にんじんを食べる」ための条件がこの世に存在するとすれば、あとはその条件をクリアする方法を考えればよいということですね。「自分から食えることはない」という条件があれば、「だまして食べさせてもらう」というアプローチで正解に近づけるというわけです。

②「集合論」：世の中の物事を分類し、はっきりと線を引くこと。「けじめ」をつけること。

例えば、世の中の女（男）の人を空間とした場合、彼女（氏）はその空間の部分集合で、彼女（氏）でない女（男）はその補集合である。そこに曖昧さはないということ。これで世の中の修羅場は数を減らすことができるということですね。

数学的な論理力を磨けば、世の中の様々な問題に対しての「答え」に近づくことができます。みなさん、数学をがんばりましょうね。「学校で習う数学」は、「世の中で生きていくための力」の「十分条件」ではないですが、「必要条件」ですからね。

ぜひ、読んでみてください。